

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【東労組執行部の権力把握をめぐる内部確執問題の整理！ シリーズ4】

嶋田たちのホームページ 更新による反本部派の猛反撃

応援団からのメッセージ <2005.10.25 009>

エッ!? 「『労使協力関係』は幻想」じゃなかったの!!

・・・9月20日の第4回中央執行委員会は「本部大会決定に反する決定を地本大会で決めた」との理由で、「峰田長野地本委員長を制裁する」決定をしたと聞く。なにがなんでも東労組から峰田委員長を追い出せという「大指導者」の教唆のもとに決定された。小心者の私は峰田委員長が制裁されるということを知り、そもそも第21回本部大会でどのような方針を決定したか方針案を改めて見てみた。そこで明らかになったのは、むしろ制裁されるべき人、方針の不実行者として本部役員が指弾されるべきことがハッキリしたのである。

どうゆうことか? 方針書「運動の基本」「2国鉄改革の精神にもとづき、職場からの挑戦と労使協力関係の強化を通じて、働きがいのある職場を創ろう」の項に「・・・『労使対等の立場』を前提とした労使協力関係を基礎に、『現場第一主義』にもとづいて・・・」と書いてある。「アレ? レ、レ・・・」である。本部大会では、疑問も批判も一切でなかったらしい。自らの方針や言動に対して自己批判も総括もせず、なにくわぬ顔でなし崩し的に転換するのは日本共産党の「伝統的手法」であるが、「教祖様」も、13階の本部の諸君もスターリンの末裔たちの手法が得意らしい。（「権力の手先」なるレットテル張りもそうだ。）遡れば、2002年7月の本部定期大会で「労使協力関係は、ニアリーイコール論は幻想だった」と吼えまくり、“歴史の屑籠”に放り棄てたのは「教祖」自身だった筈だ。そして「御身大切」と「教祖様」に盲従したのが現在13階の本部で指導者面している諸君ではないか。唯一「そうは思わない」と抵抗したのが嶋田副委員長（当時）ではなかったのか。

嶋田副委員長に「そうは思わない」と抵抗されたことに“メンツを傷つけられた”とばかりに、（自らがJR労働運動の病根になってしまっていることに無自覚のまま）「日本労働運動の病根をえぐる」などと『仇花と崇高な心』でわざわざ一頂を起こし、「幻想」の立証と嶋田批判を試みたのではなかったのか。しかしその「批判」も批判の体を成していない（無理もないことである。編集者があちらこちらから拾い集めた文章であるから）。曰く「『ニアリーイコール論』というのは、いわば理論の領域である。ニアリーイコール論は、あくまで『論』なのである。」そして「もう一度言うが、『ニアリーイコール論』というのは、論理展開、理論のレベルである。」「繰り返すが、私が『ニアリーイコール論は幻想であった』と言ったのは、この論が現実と異なったからだ。」(P264~265)というのみである。

冗談じゃない! 理論と生み出された現実の間には実践が存在するのだ。「論と現実が異なった」としたら、その現実を生み出した実践（その担い手も含めて）を総括するのがあたりまえじゃないのか。実践の総括もないまま、怒りに任せて担い手（「優れた指導者」石川委員長）の首を切ったのは、「教祖様」ではなかったか?・・・